



学校だより

# 清流

立山町立立山中央小学校

令和5年6月

## 大きく育て心とからだ

### ～ 習慣化された本当の力を(当たり前でできること) ～

先日、昼休みに職員室前で退屈そうにしている6年生のSさんを見付けました。「どうしたの？」と声をかけると、「今日は、1年生が行事でいないから、暇で・・・」と話してくれました。さらに、「えらいね。下級生のお世話って大変でしょ？」と尋ねると、不思議そうに「どうして？全然大変じゃないよ。普通かな。1年生、可愛いし」と答えます。ふと、このSさんが、4月から休み時間ごとに一年生教室に来て、一緒に遊んだり世話をしたりしていたことを思い出しました。この子にとって、一年生の世話は当たり前のことになっているのでしょうか。一年生の世話が習慣化しているSさんには、「年下を思いやる気持ち」「コミュニケーション力」等の力が育まれていると感じました。



物事を意識せずに行えるようになること。つまり、習慣化された「当たり前でできるようになったこと」こそが、本当のその人の力です。毎朝、歯磨きをするときに「今日は眠たいから歯磨きするのが辛いけれどがんばろう」等と、自分を奮い立たせて歯磨きをする人はいないでしょう。ほとんどの人は、何も考えず無意識のうちに歯磨きをしているはずで、「習慣化」とは、無意識のうちに自然とその行動ができるようになることです。しかも、習慣化してしまえば、その行動には苦痛が伴うことはありません。

とは言え、当たり前になるまでには、粘り強い取り組みや、我慢が必要になってきます。子供の心は未成熟で、個人差もあります。一人で頑張り続けることができる子もいれば、すぐにあきらめてしまう子もいます。そこで、我々、大人の関わりが必要になってきます。子供たちが何かに取り組み始めたとき、少しくじけて諦めそうなどき、取り組まなければならないことから逃げだしそうなどき等に、そっと寄り添い話を聞いたり、背中を押してあげたりする存在は大切です。子供たちが活動に継続して取り組み、本当の力を身に付けるため、周囲にいる私たち大人が支えになっていきたいものです。

また、最近の子供たちの遊びや娯楽、コミュニケーションの方法や物事に対する考え方も多様化し、生活の中での選択肢が増えていきます。悪く言えば、逃げ道も多くなっているということになります。子供たちは、「面倒だから・・・」「大変そうだから・・・」と安易に楽な方に逃げてしまいがちです。しかし、将来のことを見据えて、やらなければいけないこと、できた方がよいことに、当たり前に取り組むことができるようにしてあげなければなりません。そのために、周りの大人がそれぞれの子供に合わせた適切な判断をし、継続を促していくことが必要になってきます。



学校では、家庭や地域と協力し、子供たちの粘り強い努力を励まし、一人一人に応じた支援を行うことで、当たり前でできることを増やしていきたいと考えています。今後も本校の教育活動へのご協力をお願いいたします。

子供たちの学習活動の様子を学校ホームページに掲載しています。

【 ホームページアドレス <https://tateyama-chuo-e.edumap.jp/> 】



【 ホームページ QR コード 】